

「農山村教育民泊」  
が実施されました  
編集部 島津



受け入れ家庭で農作業体験をする明德高校生

去る四月二十六日から一泊二日の日程で明德高校一年生五十二名を川東地域十三家庭で受け入れ実施されました。千歳町では毘沙門区(二家庭) 江島里区(三家庭) 出雲区(二家庭) で二十八名の高校生が夏野菜の移植等の体験をしました。  
当日は突然の雨もありましたが熱心に作業を行いました。その後は受け入れ家庭との夕食を通してのふれあいや、二日目朝の宿泊家庭近隣の散策を通して千歳町の暮らしを実感できたものと思います。将来この子達が千歳町に愛着と関心もつてくれることを願っています。

新しい時代に向けて

分団長 寺町 宏史



宣誓する亀岡団員

四月七日(日)に、亀岡市消防団千歳分団は、新年度の入退団式を行いました。廣瀬自治会長様をはじめ、古林纏会理事様 各区分長の皆様、各団体の皆様におかれましては、早朝より御臨席賜り、誠にありがとうございました。  
今年度は、永く消防団活動に関わり、実際の災害現場や表彰等でもご活躍頂いた真継前分団長を含む二名の退団者を送り出すとともに、新たに、出雲区の亀岡伸吾さん、松永真一路さんの二名を迎えることとなりました。退団者のこれまでのご活躍を讃え、感謝するとともに、新入団者二名の千歳分団での活躍を期待しています。  
さて、平成から令和となり、新しい時代を迎えました。新しい時代に起こるであろう社会の変化、また年々に姿を変える災害に対応しつつ、「千歳町の皆様の安全・安心を守る一助となる」という消防団の根本の部分が変わることなく、千歳分団として受け継いで活動していきたいと思えます。本年度も、千歳分団の活動への御協力を、よろしく願っています。



退団された真継前分団長を囲んで

春のグラウンドゴルフ大会

(いきいき活動推進事業)

編集部 島津

恒例の年度最終の大会を湯の花温泉煙河コースで行う予定でしたが、前日からの雨で会場が使用できなくなりました。そのため急遽会場を保津川河川敷グラウンドゴルフ場に変更し何とか開催することができました。

今回も四十名という大変多くの参加があり、なんとホールインワンが十一名十二回も出る熱戦が繰り広げられました。試合後は予定通りホテルでの昼食でした。和やかな雰囲気の中、会話も弾み楽しい昼食会となりました。

結果、優勝が出雲台区の黒田一之さん、二位が出雲区の廣瀬義直さん、三位が出雲台区の和田洋子さんでした。



40人が和気あいあいとプレー



春のグラウンドゴルフ大会に参加した皆さん

愛宕神社鎮火祭

愛宕神社宮司 西田 利弘

国分鎮座の愛宕神社の創始は極めて古く、当社に伝わる由緒書巻物によると、第二十六代継体天皇元年（西暦五〇七年）と記されています。

当社では毎年四月二十四日に鎮火祭を斎行しておりますが、これは祭神の伊邪那美命(いざなみのみこと)と火産靈命(ほむすがのみこと)の御心を慰めて荒ぶること無く鎮め申し上げ、火難災害無き事を大神様に乞祈る祭典です。

大宝年間(西暦七百年頃)すでに行われていたことが神祇令に記されています。後世になって宮中に於いても六月と十二月大晦日の大祓の後行われていました。大祓は今日多くの神社で夏越大祓、年末の大祓いとして盛んに斎行されていますが、鎮火祭は一般に廃されて、わずか各地の愛宕神社に残っているようです。祭典には一般的な神饌の他に特に匏(ひさご)に入った水、土(清砂)、川菜(水苔)を供えています。が、これは延喜式卷八の鎮火祭祝詞に「水



防火を願う関係者らが参拝

の神、匏、川菜、植山姫(土の神)の四種を生み絵ひ、心悪しき子の荒び云々...とあり、これにしたがって当社においても同じくお供えしております。本殿にお供えした火打石でかがり火に点火し、消防署長と消防団長が、献水した水で火を鎮め、次いで千歳分団長は川菜で、国分班長が砂で火を鎮め、古来より伝わる火鎮めの所作を行います。

古式に則り祭典を続けてゆき、現世から火災の無きことを祈念し、平安な生活を送れるよう、大神様にお願いを続けてまいりたく思っております。

平成最後となった慰霊祭

自治会長 廣瀬 義直

毎年の慰霊祭で御英霊に「祭文」捧げますが、以前より出席者だけでなく町民の皆さんにも紹介してほしいという声がありましたので、平成三十一年度の祭文(一部省略)をご紹介します。



満開の桜の下で戦没者を追悼

【祭文】

満開の桜・春爛漫の本日、ここ七谷川河畔英霊塔前に、千歳町内全てのご英霊の御霊をお迎えし、平成三十一年度千歳町戦没者慰霊祭を執り行うにあたり、謹んで祭文を捧げます。

はじめに、先の大戦で亡くなられた全ての御霊に対し、町民を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。幾多の尊い命が失われた大戦から早や七十四年もの歳月が過ぎ去りました。

戦争を体験した世代は少数となり、戦争の悲惨さや戦時下の苦難を直接聞き取ることが難しい時代へと変化しています。こうした時代だからこそ慰霊祭の意義は一層深まっています。

祖国の平和と発展を願い、生まれ育った故郷を後に、家族の安泰を念じながら、苛烈を極めた戦闘の中で傷つき斃れられた皆様、あるいは戦後に至るまで異境の地に残され、飢えに苦しみ、病に冒され、祖国に帰ることがかなわなかった皆様のご無念に思いを馳せますと、万感胸に迫るものがございます。ここに改めまして、戦没者の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、最愛のご家族を失われ、決して癒やされることのない深い悲しみを胸に、今日に至るまで長く苦しい日々を過ごしてこられましたご遺族の皆様方のご心痛をお察しするとき、お慰めの言葉も見いだせませんが、相次ぐ苦難に耐え、乗り越えられてこられましたそのご努力に心から敬意を表するものでございます。

中略(千歳の発展の様子を「報告」)

今日、私たちが当たり前のように享受している、ふるさと千歳の平和と繁栄は、戦禍の中で尊い命を捧げられたご英霊の重い犠牲の上に築き上げられてきたものであることを決して忘れることなく、悲しい歴史を二度と繰り返ささないとの決意を新たにいたしますと共に、若い世代にもしっかりと語り継ぎ、希望に満ち溢れた安心して住み続けられるまちづくりを全力でみんなの力を合わせて進めていくことをお誓い申し上げます。

結びにあたり、戦没者の御霊が安らかなることをご祈念申し上げますと共に、ご遺族の皆様のご長年ご苦労にわたるご労苦に対し、深い敬意と感謝を捧げますと共に、今後のご健勝を心からお祈り申し上げます。

麒麟がくる

亀岡市を始め、関係市町村の念願が叶い、来年度の大河ドラマの主人公が明智光秀に決定しています。そんな中で今年の光秀まつりは盛り上がりました。

千歳町自治会を代表して、小口区の名倉洋一区長(写真先頭)と毘沙門区の鴨井菟区長(写真右端)に武者行列に参加していただきました。

